※特別支援教育コーディネーター用

　　　　（具体的な支援例）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **『つぶやき分析シート』**  教科「　　　　」（　　）年（　　）組　　単元「　　　　　　　　」 | | | | 授業前　導入   1. 体育着等のこだわりがあれば事前に確認し、対応することを伝える 2. 参加するタイミングの確認をする（授業のどのタイミングで入れるか） 3. これまでの経験から、トラウマで抵抗がある場合は、授業参加パターンを   つくり途中でも来られるように支援する   1. 授業に遅れないように声を掛け合う（人間関係が良好ならリーダー活用） 2. 時間、集合場所を伝える（移動するときは必ず伝える） 3. 単元の説明を事前にする（個人的に行うことが有効） 4. 授業の流れを毎時間同じにする（ルーティーン化） 5. 一斉指導の後、個別に説明をする 6. 授業の流れを可視化する（ホワイトボードや電子黒板の活用） 7. 単元を行う上でのルール確認（全員で行うために必要なこと） 8. 見学者はできる範囲で参加（挨拶、全体説明、ペア・グループ学習等）   展開   1. どのような目的で、何を、どのように、どこまでするのかをはっきりさせる 2. 授業を受けるときのルールを全体に周知する 3. 最初に内容を示し、手本を見せ、見通しをもたせる（可視化する） 4. 全体への説明後、個別に同じ指示を出し確認する 5. 教師が問い返すことで学習の理解を深める 6. 指示が分かりやすい場所、手本となる児童のそばに固定する 7. 集団行動（活動）から外れないための誘導、指示の出し方の工夫をする 8. 課題をどの順番で行うのか分かりやすく示す 9. みんなと同じ課題が進められない場合は、課題量を調節する   ㉑　課題が終わったら、次に何をすればよいのかいくつか提示しておく  ㉒　今の活動を、あと何回行うのか伝え終わりを示す（待つ事への対応）  ㉓　目の前にある活動（作業）に集中ができるようにこまめに声を掛ける  ㉔　タブレット端末や電子黒板を使用し、分かりやすく示す  ㉕　活動によってグループの人数、メンバーを意識して設定する  ㉖　学び合いでは、何を伝えるのか説明やヒントを出しながら実施する  ㉗　叱責ではなく、声の調節をし、なぜ注意されているのかを説明する  ㉘　分からないとき、困ったとき、言い出せない場面での合図を考えておく  ㉙　苦手な刺激への対応を事前に確認する（大声、光、ピストル音、裸足、友達関係）  ㉚　友達が注意されているのを見ることが苦手かどうか確認する  ㉛　どのような場面で感情が高揚するのか、事前に確認する  ㉜　天候によって気持ちのムラがある場合は、休憩や回数などの調整を行う  まとめ  ㉝　振り返りでは、記入が困難な児童には言葉のヒントを提示し選択させる  ㉞　振り返りの感想は、選択性ありの挙手制で参加しやすくする  ㉟　特別支援学級教室でも繰り返し練習ができるように連携する  ㊱　ペアやグループでの感想の伝え合いは、何を伝えるかポイントを絞って伝える |
| 手順　1心のつぶやき伝えるシートから児童がどの場面でつまずきを感じているのかを把握する。  　　　2場面の何がつまずきとなっているのか、項目を絞り、下記の個人のつまずき欄に記入する。  　　　3右表（具体的な支援例）を参考に個々に応じた支援を記入する。 | | | |
| **児童名** | 児童名 | 児童名 | 児童名 |
| **心のつぶやきシートより**  **（つまずきや目標を記入）** |  |  |  |
| **活動場面** | **配慮すること** | | |
| **授業前　（参加する）**  **導入**  状況理解の困難  見通しのなさへの不安  関心のムラ  不注意・多動  二次障害  暑さ寒さへの対応　　など |  |  |  |
| **展開　　（理解する）**  認知のかたより  （視覚・聴覚）  複数並行作業の苦手さ  曖昧なものへの弱さ  イメージすることの苦手さ  学習スタイルの違い　など |  |  |  |
| **まとめ　（習得する）**  記憶の苦手さ  定着の不安定さ  理解のゆっくりさ　　　など |  |  |  |